
涙の痕

真奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙の痕

【著者名】

真奈

N4354D

【あらすじ】

あなたが少しでも私を好きでいてくれたならそれで、それで良かつたんです。

Opening

きっとこんな恋は幸せになれないね
それでもあなたの言つてくれた言葉を信じるから
バカみたいに平氣で笑つてるから
どうか気づかないで愛しい人
私があなたを愛していたことを

瑛太

あたしが入学した高校はとくに頭が良いわけでもなく何か特徴があるわけでもなく有名人の母校とかそんなんでもなくて簡単に言つたら普通のほんとに普通の学校。誇れるところなんかないけどこここの高校に入った理由もお姉ちゃんが居たからだけど、ここが大好きだつた。そして私はここで、人生で何よりも大切な思い出をつくることになる。

神崎琴音 16歳。ピンチです。

「やばい、やばいよ・・・」

入学式に迷うなんてベタな展開だけどまさかほんとに迷うなんて。こじりこじり・・・? 辺りには見覚えのない風景が並んでる。ちょっとはりきって早めに出たのがまだ良かつたけどこのままじゃ完全に遅刻。

おねえちゃんについてきて何で迷ったんだろう。

「もうやだっ!」

へなへなとその場に座り込んだあたしの周りに無情にも桜が散る。溢れてきそうな涙を新品の制服の袖で拭いた。

こんなところで泣いてなんか居られない。

ふと足音が聞こえてきてそれがどんどんあたしに近づいてきて気づいたら座り込んだあたしの上に誰かの影があちていた。ゆっくり顔を上げると男の人が目の前に立つてゐる。

あたしと同じ学校の制服。

「つあの・・・」

私が何か言つ前に男の人はあたしの腕をものすごい力でひっぱつてたたせてくれた。

頭に乗つてる桜の花びらもポンポンと払い落としてくれた。そこからも何も言わず私の腕をひぱって歩いていく。

この人誰・・・？

一分もしないうちに私たちは学校の門の前に立つていた。お姉ちゃんを見つけて駆け寄つていぐ。

「あーっ！ もーどこいってたの！？」

「ごめんっ！…！」

手を合わせて謝る。

「心配したんだからっ！…どうやつてここまで来たの？」

完全にお姉ちゃんに呆れられてる。

「えつとね・・あ、あの人！ あの人人がここまで連れてきてくれたの！」

気づいたら遠くに居てちつちゃくなつた男の人を指さす。

「あ、瑛太じやん」

「・・・芸能人の？」

「違うよっ！ 早瀬瑛太。知らない？」

「しらなーい。お姉ちゃん知り合い？」

「野球部の2年。琴音の一つ先輩だね？」

お姉ちゃんは野球部のマネージャー。3年だから今年で引退だけど。あ！ お礼言つてない！…つてか何で私のことここまで連れてきてくれたんだろう？

お姉ちゃんの妹だから？ ん、でも何で私が妹つて分かつんだろう。ま、いいや。今度会つたら聞いてみよ。

・・・それにしてもちょっと格好良かつたかな。

瑛太。初めて会つたときは桜の中だつたね。

私、今でもあの時のこと覚えてるよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4354d/>

涙の痕

2011年1月27日01時49分発行